

## 選挙のない国

大森 海太

斜め読みの本によれば、国民の投票によって代表を選ぶ「選挙」は古代ギリシヤの民主政に始まるとか、原始ゲルマン民族の首長は民会で選ばれていたとか、十三世紀のイングランドでは王の権限を抑える大憲章マグナカルタが定められ、のちに議会が招集されたとか、いろんなことが書かれている。

しかし今日、世界中の国々で国会議員や地方議員の選挙が行われるようになったのは、十九世紀の国民国家形成に始まり、二〇世紀二度の世界大戦を経てからのことであらう。

今ではロシアやイランのような国でも選挙が行われているようだし、ミャンマーのクーデター政権や一国二制度の香港でも、厳しく立候補者を制限するものの、選挙という体裁ていさいを取りつくりつつあるのには驚かされる。

いっぽう今でも「選挙のない国」がある。すぐに思いつくのはサウジアラビア、中国、それに北朝鮮。

現在のサウジは二〇世紀前半、サウド家のイブン・サウドがオスマン帝国からリヤドを奪回して樹立した王国で、現在は七代目のサルマン王、実権はムハンマド皇太子が掌握しており、議会などは存在しないのかしら。

中国の歴代王朝は世襲によって引き継がれてきたが、勢力が衰えると天が革あらたまり天子の姓が易かわわる「易姓革命」となるといわれてきた。

ところが今日の共産党政権になって元首（主席）の世襲は行われず、さりとて選挙などする気配もなく、後継については表面に出ない党幹部間の激しい権力闘争によって決まっていくのだろうか。

最後に北朝鮮だが、正式国名「朝鮮民主主義人民共和国」とはいつても実態は民主主義とは程遠く、第二次世界大戦のあと金日成が建てた軍事独裁国家である。

現在は三代目の金正恩が権力を握っており、最近では彼の娘が後を継ぐとかでいるんな行事に父親と一緒に顔を出しているが、見ればまだ中学生くらいの女の子だ。

この子が将来政権の座にいたら、叔母さん（正恩の妹）との確執かくせつが懸念されるといわれている。他人事ひとごとながら、だいたいよーぶかな？